

高校入学後の活動に関する記述（例）について

※ インターネット出願時に記述（入力）していただく予定です。

問題：高校入学以降に自ら積極的に実施した活動（3項目以内）を挙げ、それぞれの項目について、「具体的に何をして、何を身に付けたか、また、それを、九州工業大学でどう活かすか」を筋道をたてて、200字以内で記せ。

記述例 1

高校時代は受験勉強を含めた学修活動に専念し、特に理科・物理に興味をもった。その結果、物理は在籍する高校の中でトップレベルの成績となり、特に、「ものの動き」に興味を持った。併せて、九州工業大学で実施している「ロケットの打ち上げ」に興味をもち、物理の学びは社会の役に立つと感じた。そこで、工学2類に進学し、機械工学を学びたいと考えた。将来的には、ロケットなどの飛翔体の設計を行いたい。（190文字）

記述例 2

電子工作やフリーソフトウェアの開発を独学で始めた。その後、学校外のコミュニティで活動するようになり、成果をインターネット上で公開したり、Mini Maker Faire等に出品したりした。発展させた企画を立て、社団法人「未踏」の主催する未踏ジュニア事業に応募した。不採択ではあったが、プロジェクトマネージャーからの指摘を受けて企画を日々より良いものにしており、大学で体系的に学びながら仲間を募り、再挑戦したい。（192文字）

記述例 3

吹奏楽部に所属し、3年時には第一トランペッターを務めた。また、金管楽器のまとめ役として部の役員となり、九州大会への出場を果たした。音楽技術を習得しただけではなく、1-2年生を含む多くの部員を率いて成果を得たことは、大変嬉しく、将来にも繋がる経験であった。九州工業大学では、情報工学を選択するが、多くのひととともにシステムを作っていく際に、部活動を通じて得られた経験を活かすことができると考えている。（199文字）

記述例 4

福岡県北部で水害がおこり、甚大な被害がもたらされた。ボランティアとして被災地での復興支援に携わる中で、災害時の情報が十分に行きとどかず、2次災害や孤立化を引きおこしていることに気がついた。普段、情報インフラに囲まれているが、災害時にはそれが容易に失われることが分かった。情報工学部へ進学後は、安定した情報インフラを提供するための技術の研究・開発に携わり、被害を最小限に食い止めるための職に就きたい。（199文字）